

総合特別区域評価・調査検討会における評価結果の概要(平成28年度)

2. 分野等別状況 (2)地域活性化総合特区 ①グリーン・イノベーション分野(3/9)

	評価区分(※)	総合評価 (IとIIとIIIを1:1:2の割合で計算)	I	II	III	総合評価に係る専門家所見(主なもの)
			目標に向けた取組の進捗	支援措置の活用と地域独自の取組の状況	取組全体にわたる事業の進捗と政策課題の解決	
次世代エネルギー・モビリティ創造特区 (豊田市)	正	4.2	<p>4.3</p> <p><u>進捗度</u></p> <ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギー(太陽光、小水力等)の地産地消率の向上 248% モビリティの活用によるCO2の削減(運輸部門) 60% 市域経済の成長 283% 市民満足度の向上 98% 	<p>3.8</p> <p><u>規制の特例等</u></p> <ul style="list-style-type: none"> HEMS(ホームエネルギーマネジメントシステム)を介したスマートフォンによる遠隔操作 <u>財政支援等</u> 人がつながる“移動”イノベーション拠点～高齢者が元気になるモビリティ社会～等 <u>地域独自の取組</u> 豊田市エコファミリー支援補助金 等 	4.3	<ul style="list-style-type: none"> 特区の取り組みに対する包括的な評価指標を設定しており、かつほとんどの指標において目標値を上回るなど、エネルギー・交通分野に関しての取組みが進捗しており、新計画初年度として順調なスタートである。 サステナブルプラントについては、全国的な工場のエネルギー管理の進展を踏まえ、より高度な内容のもの整備にも力を入れてはどうか。 次世代自動車の普及については、次世代自動車の価値のPRや車両の購入補助だけでなく、充電設備などのインフラ整備をさらに着実に進めるなど、地域のこれまでの優位性を生かした独自の先導的な取り組みを期待したい。 経済活性化、市民の満足度については中間指標等の検討も期待される。

※「正」とは平成28年3月末までに計画が認定された地区の評価、「準」とは平成28年3月末時点では計画が認定されていない地区の評価を意味する。